

第 69 期（平成 30 年度）事業の概況

1. 会 員

会員数は、平成 30 年 12 月 31 日現在、名誉会員 6、個人正会員 1,600、団体正会員 360（402 口）、学生会員 204 の計 2,170 であった。理事会及び会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員 85、団体正会員 10（10 口）、学生会員 112 の新入会・復会を得たものの、個人正会員 146、団体正会員 7（7 口）、学生会員 105 の退会があり、前年同期に比べ計 50 が減少した。

2. 会 計

当初予算の収益は、会員数及び景気の動向などを考慮し、前年度決算より受取会費 59 万 7,750 円減、事業収益 251 万 794 円減とした。

これに対し受取会費は、予算のとおり前年度決算に対し 53 万 7,250 円減であった。受取会費のうち、団体正会費は前年度決算を上回ったものの、個人正会費は前年度決算を下回り、会員数漸減にともなう受取会費の減少傾向を止めることができなかった。また事業収益は、予算より減少幅が小さく、前年度決算より 83 万 3,456 円減であった。事業収益のうち、学術セミナー収益は前年度決算を上回ったものの、会誌発行収益と展示会収益は前年度決算を下回る傾向が続いている。なお、学術講演会収益は、地震による講演大会中止の影響を受けて前年度を下回った。

一方、費用は、講演大会中止及び各事業での支出抑制により、前年度決算に対して 258 万 4,662 円減となった。

以上のとおり、収益は前年度決算より減少したものの費用を充分抑制できたため、当期経常増減額は前年度とほぼ変わらず 1,676 万 3,457 円増となり、結果として正味財産の当年度末残高は 9,674 万 7,851 円となった。

3. 講演大会等

第 137 回講演大会（芝浦工業大学 豊洲キャンパス、3 月 12 日～13 日）は、発表件数 188 件、参加登録者 537 名であり、シンポジウム（5 テーマ）及び第 87 回武井記念講演会は聴講者も多く、大会の活性化に寄与した。

第 138 回講演大会（北海道科学大学、9 月 13 日～14 日）は、「平成 30 年北海道胆振東部地震」のため講演を中止したが、講演要旨集（CD-ROM 版、冊子版）を公表済みのため、講演要旨集に記載した範囲で講演大会が成立した（発表件数 157 件）。なお、第 137 回講演大会において「第 24 回学術奨励講演賞」を 8 名に授与した。

第 75 回表面技術アカデミック研究会討論会として「燃料電池の現状と将来—最先端の研究と施設にふれてみませんか？」（山梨大学 燃料電池ナノ材料研究センター、11 月 22 日）を開催した。

4. 会 誌

12 テーマの小特集及び特集を企画し、年間 12 号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計 658 ページ、掲載論文は、研究論文 16 件・ノート 6 件・速報論文 10 件であった。

また、J-Stage [科学技術情報発信・流通総合システム；(国研)科学技術振興機構]には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」及び「現場パンフレット（後改称：実務表面技術）」の創刊号から第 69 巻（平成 30 年）6 号までで掲載した。2013 年に財政逼迫のため、J-Stage への掲載を見送ったことから、1 年前の号までを掲載していたが、半年前の号までを掲載する状態に戻した。

なお、70 周年記念特集号を 2020 年（第 71 巻）2 号として発刊することとし、企画を進めている。

5. セミナー

夏季セミナー“表面処理基礎講座（Ⅰ）”（日本パーカライジング(株)本社、6月26日）のほか、“めっきプロセスの基礎と評価実習”（東京理科大学 野田キャンパス、7月26日～27日）、“ドライプロセスの基礎と薄膜作製”（千葉工業大学 津田沼キャンパス、8月22日）、“めっき液の分析と管理”（神奈川大学 横浜キャンパス、8月31日）、“めっき現場における要素技術”（千葉工業大学 津田沼キャンパス、10月24日～25日）、“表面処理基礎講座（Ⅱ）”（日本パーカライジング(株)本社、11月19日）を開催した。参加者の合計は320名であった。

6. SURTECH

“SURTECH 2018－表面技術要素展”は、主催：本会、日本鍍金材料協同組合、JTB コミュニケーションデザイン、後援：全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会により、“nano tech 2018（国際ナノテクノロジー総合展・技術会議）”など10の展示会と同時開催した（東京ビッグサイト、平成30年2月14日～16日）。出展社(機関)は、59社/機関、99小間であった。主催団体によるコンセプトゾーン「進化する表面技術」では、ものづくりの基盤技術である表面処理技術を牽引しているめっき専門社の出展及びウエット・ドライプロセスの実演コーナー、日本表面処理機材工業会による特別企画展示「災害の影響を受けにくい・自ら災害を起こさない設備」との相乗効果により、多くの来場者を集めた。全体の来場者は44,437名であった。また、“SURTECH 2019”の開催に向けて準備を開始した（東京ビッグサイト、平成31年1月30日～2月1日）。

7. 国際交流

IUSF（International Union for Surface Finishing）に加盟する諸団体から、INTERFINISH 2020（名古屋）開催国である日本にIUSF会長を選出して欲しいとの強い要請があった。11月1日に上海で開催されたCouncil Meetingにおいて齋藤 永宏 国際学術交流委員長がIUSF会長を務めることとなった（任期4年）。会長就任とともに新しい組織体制の検討が進められている。

8. ISO 規格検討専門委員会

国際標準化機構（ISO）のTC 107 部門（金属及び無機質皮膜）の国内審議団体として、特別委員会の中にISO規格検討専門委員会（兼務：ISO/TC 107 国内対応委員会）を置き、国際規格の制定などに協力した。

9. 70周年記念事業

2020年に迎える創立70周年記念事業実施のため、平成30年12月5日に開催された第5回常務会において「創立70周年事業委員会（委員長 高橋 英明）」の委員構成及び事業趣旨書案を承認した。事業企画とこれに要する経費の募金活動を平成31年早々に開始することとし、記念事業に向け準備を進めた。

10. 表彰

協会賞1名、功績賞2名、論文賞1件、技術賞1件、進歩賞2名、技術功労賞5名を表彰した。

11. 表面処理団体協議会（表団協）

本会及び全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会の3団体で組織する表面処理団体協議会は、平成29年度（第28回）表団協セミナー“自動車車体用材料と表面処理(Ⅱ)－自動車の軽量化と環境対応を中心に－”（東京ビッグサイト、平成30年2月16日）を開催した。また、平成31年度（第29回）表団協セミナー（東京ビッグサイト、平成31年2月1日）をSURTECH 2019会期中に開催することとし、準備を進めた。

12. 支 部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性に対応した諸活動を活発に行った。また、北海道支部は「平成30年北海道胆振東部地震」により中止となったものの、第138回講演大会開催に向けて尽力した。

13. 部 会

本期に活動している部会は以下のとおりである。

- ① ウェットプロセス研究部会
- ② 環境および機能性に関する塗料部会
- ③ 金属のアノード酸化皮膜の機能化部会
- ④ 高機能トライボ表面プロセス部会
- ⑤ 材料機能ドライプロセス部会
- ⑥ 将来めっき技術検討部会
- ⑦ ナノテク部会
- ⑧ 表協エレクトロニクス部会
- ⑨ 表協青年経営技術懇話会
- ⑩ 表面技術環境部会
- ⑪ 表面技術とものづくり研究部会
- ⑫ めっき部会
- ⑬ 溶射・ライニング部会
- ⑭ 熔融金属表面プロセス部会
- ⑮ ライトメタル表面技術部会